

アフリカ系アメリカ人生徒の 合衆国史観に関する研究

— 一人種間における歴史観の違いを検証する —

川 上 具 美

How African American Students Learn US History:
Comparative Study of Historical Perspectives among Races

Tomomi Kawakami

1. 問題の所在と研究の目的

本研究の目的は、アメリカ合衆国において、アフリカ系アメリカ人生徒がその家族的な背景や学校外で得た知識を使ってどのように合衆国史を学んでいるのか、つまり人種・エスニシティ的背景が与える歴史学習への影響を探究することにある。そのための調査対象として、イリノイ州シカゴ市内にある公立学校を卒業した生徒に焦点を当て、人種別にアフリカ系アメリカ人（黒人）とヨーロッパ系アメリカ人（白人）へのインタビューを行った⁽¹⁾。

研究にあたって、ニエトー（Nieto）の多文化教育論（2008）とラドソン・ビリングズ（Ladson-Billings）の文化関連教育法（Cultural relevant Pedagogy）の理論的枠組みをもって、黒人生徒との白人生徒⁽¹⁾との間にある教育達成のギャップを埋めるための教育方法、およびギャップを埋めるための教育思想とした。多くの先行研究において、黒人生徒は家庭のもつ文化的背景から影響を受けたコミュニケーション方法や振る舞いによって白人教師から問題視される傾向にあることをつきとめてきた（Davis 1994, Baker 2005, Skiba 2002, Gregory 2004）。つまり、アメリカの伝統的學校文化やカリキュラムには、生徒を WASP の文化に同化させようとする傾向があり、こうした文化に根ざし

た言動があるかなしかで、生徒の学校における成功が決まるというものである。特に WASP の文化から遠くにあるアフリカ系アメリカ人の生徒が学校において成功するために必要なこととして、ミッチェル (Mitchell 1998) はアフリカ系アメリカ人教師の役割に注目し文化的価値観を共有できる学校文化づくりを提唱し、ニエトーら (Nieto & Bode 2008) は子ども間にある文化的な差異を「欠損」として捉えるのではなく、教育の始点として捉えることを提唱している。

さらにこれまでのアフリカ系アメリカ人生徒についての教育実践研究を分類すると、教育改善のための理論的な枠組みからの応用型の実践研究 (Stringfield 1997; Howard 2001 A B; Ware 2006; et al.) と、現実的な教育問題を解明するための解明型の実践研究 (Davis and Jordan 1994; Baker 2005; Skiba, Michael, Nardo and Peterson 2002; Way 2004; Monroe and Obidah 2004; et al.) とに分けられ、それぞれの実践研究は、学校 (Stringfield 1997, Patton 2006)、教師 (Mitchell 1998, Howard 2001 A, Ware 2006, Monroe and Obidah 2004)、そして生徒 (Rosenbloom and Way 2004, Howard 2001 B) からの視点に分けられている。こうした黒人生徒のための教育改善に関する実践研究と、黒人生徒の間に起こっている現実の教育問題からの実践研究はここ十年の間に着実に増えてきており、教育現場での教育改革にも応用されエンパワーメント教育として各学校で独自の取り組みが行われ、またそれが教育研究の対象になっている。

しかし、黒人生徒の文化的背景と学校文化との乖離に関する研究とこれを補うための学校レベルの取り組み、教師による教育方法についての研究は進んできたが、各教科のカリキュラム内容のもつ文化と黒人生徒の間にあるギャップについてはまだ研究が進んでいない。特にナッシュ (Nash 1997)、シンコックス (Symcox 2002)、グラント (S.G. Grant 2004) らが、歴史カリキュラム内容が 90 年代のナショナルスタンダード論争以降 WASP の文化・歴史観に傾倒したことを明らかにしたにもかかわらず、それが黒人生徒のもつ歴史観に及ぼす影響やそのギャップを明らかにした研究はほとんど見当たらない。唯一、エプスタイン (Epstein 2009) が黒人生徒の歴史教育における理解を生徒、教師、保護者を調査対象としその学び方について 1990 年代研究しているだけである。そこで本研究は、このエプスタインの研究をさらに「落ちこぼれをなくす法

(No Child Left Behind)』制定以降のスタンダード政策との関連、多様化するエスニシティにも調査対象を伸ばし、さらに精密化しようとするものである。

アフリカ系アメリカ人の教育達成は、他のエスニシティと比較しても明らかに低い、それゆえに生徒の低い教育達成のメカニズムを明らかにし、新しい歴史教育の在りかたを創造する必要がある。そのために本研究は、合衆国史に焦点を当て、黒人生徒がどうそれを学ぶのかを、白人生徒のそれと比較しながら明らかにする。調査課題は以下のようにになっている。

1. 合衆国史を学ぶ時の黒人生徒の視点は白人生徒の視点とどう違うのか？
2. 黒人生徒のもつその人種的な背景や経験はどう歴史解釈や歴史観形成に影響を及ぼしているのか？
3. 黒人生徒と白人生徒の歴史認識と解釈に違いはあるのか？

2. 調査方法

本研究は、研究課題を明らかにするために、合衆国史の学習を終えた大学生を対象にインタビューを行った。本研究は、人種や家族の歴史的な背景や生活経験と歴史学習の関連を調査する必要があるため、メリアム (Merriam 1998) の質的教育研究方法を使いデータを収集し、これをコーディングの技法をつかって分析している。

データは米国中北部にある大都市シカゴの高校に通った白人生徒と黒人生徒それぞれを選定した。大都市シカゴを持つイリノイ州を選定した背景として、その歴史教育の特殊性があげられる。イリノイ州もまた全米のスタンダードによる教育改革が推進されたが、その中で、他の大都市を抱えるニューヨーク州やカリフォルニア州とは異なり、歴史スタンダードに大きな特徴をもっている。ニューヨークやカリフォルニアでは、ハイステークスな標準テストが実施され、スタンダードに掲げられている知識の習得が評価されるが、イリノイ州ではこのハイステークス性が破棄され、学力判断材料としての標準テストのみが実施され、またスタンダードの内容も、歴史に関する資料収集能力とその解釈能力や批判的な思考の習得に焦点が絞られ、実際に具体的な歴史の内容にまでスタンダードが踏み込んではいないのである。こうしたイリノイ州での歴史

教育から創り出してきた生徒のそれぞれ歴史観を、人種別、またエスニシティ別に研究することは、伝統的な歴史観による授業だけではなく、さまざまな形態の授業や教師独自の裁量による授業がどう生徒に影響を及ぼしているのかを知る上で、必要不可欠な条件である。

本研究では、黒人生徒と白人生徒からインタビューの対象者を、その人種・エスニックの背景別に選定している。その内訳は、人種別では黒人生徒5人白人生徒5人、黒人と白人の両親を持つミックス (Bi-RAA) の生徒2人である。生徒の家族的背景やその経験を考慮するためには、エプスタイン (Epstein) の調査にあるような黒人・白人という人種的カテゴリーだけでは十分ではないため、その起源にまで踏み込んで対象者を絞った。本調査研究では、アメリカ合衆国内での奴隷の祖先をもったアフリカ系アメリカ人 (AAUS)、カリブ海地域での奴隷の祖先をもったアフリカ系アメリカ人 (AACC)、近年アフリカより移民としてアメリカに渡ってきた祖先をもつアフリカ系アメリカ人 (AAA) というエスニック集団を選定している。略称については、本調査の分析結果の表記のさいに、便宜上使用している。調査対象者の人種・エスニシティ、そして現在の学年を分類すると表2のようになる。白人学生の場合、エスニック集団同士の混血が進んでいるため、調査対象者自身、自己のエスニック集団を特定することが難しいため、原則こうした集団を特定してはせず、ヨーロッパ系

表1 調査対象者の分類

人種・エスニシティ	性別	学年	専攻	分類
A 黒人 (アフリカ系アメリカ人)	男性	4年	ビジネス	AAUS
B ミックス (片親がアフリカ系アメリカ人)	女性	1年	ビジネス	Bi-RAA
C 黒人 (アフリカ系アメリカ人)	女性	2年	教育	AAUS
D 白人 (不明)	男性	3年	教育	EA
E 黒人 (両親がアフリカからの移民)	男性	4年	数学	AAA
F 白人 (ユダヤ系アメリカ人)	女性	2年	社会学	EA-J
G 白人 (一部アイルランド系)	男性	1年	ビジネス	EA
H ミックス (片親がアフリカ系アメリカ人)	男性	3年	ビジネス	Bi-RAA
I 白人 (一部イタリア系)	女性	1年	教育	EA
J 黒人 (両親がカリブ海沿岸諸国から移民)	男性	1年	ビジネス	AACC
K 黒人 (祖母がフランスからの黒人移民)	男性	1年	数学	AAUS
L 白人 (不明)	女性	4年	教育	EA

アメリカ人 (EA) と表記している。しかし、ユダヤ系アメリカ人については宗教上、人種上はっきりとした集団帰属意識があったためユダヤ系アメリカ人と (EA-J) と表記した。

データ収集にあたっては、イリノイ州にある大学に在籍する 10 人の生徒にインタビュー調査の許可を取り、ひとりひとり単独でインタビューする方法をとった。時間は 30 分から 40 分程度とし、IC 録音機を使って記録している。インタビューは、まず作られた 14 の質問項目 (巻末資料 A 参照) に沿って、対話方式で行い、そのつど疑問点などは質問を加えていった。質問項目は、エプスタイン (Epstein) の量的調査で使われたアンケートの質問を一部使用し、その他に、白人と黒人の人種差別問題を取り扱う大きな単位である「奴隷制」と「公民権運動」に焦点を当て、どう学んだのか、またどう理解しているのかに焦点を当てた質問項目を加えている。また、インタビュー行った環境にも配慮し、ある程度独立性の高い部屋で行い、他者に聞かれる心配のないよう配慮しながら行った。インタビューデータの分析を行うにあたって、データの書き起こしを行い、その時の表情やしぐさなどもそれを覚えているうちに書き加えていった。それぞれの質問項目に従って、他のインタビューとの比較を行い、それぞれ関連性の高い部分や特異な返答などをコーディングの手法 (Merriam 1998) を使いテーマに分け理論化を行った。

3. 分析と結果

データ分析の結果、データは質問項目におけるそれぞれの人種における 2 つの異なる視点が明らかになった。一つは合衆国史における奴隷制など人種差別について扱った「歴史教育における経験および考え方」、そして「歴史観と家族の物語」から、調査対象者それぞれの回答をコーディングし、そこに見られる個々の経験や知識がどうそれぞれの視点に影響しあっているかを分析した。

(1) 歴史教育について経験および考え方

黒人生徒の場合・・・授業外で得る知識や差別経験がもたらす授業への不信感
アフリカ系アメリカ人の調査対象者に見られる教室外体験・知識、そして合

衆国史への視点には、人種差別にまつわるストーリーが存在している。これは、合衆国内での奴隷を祖先に持つか持たないかという事実にかかわらず、両親が国外からの移民であっても一様に黒人として社会からの偏見を受け続けている。こうした経験は、歴史学習や歴史教師から受ける情報の受け方に大きな影響を及ぼしていることがわかった。

両親がカリブ海沿岸の諸国からの移民である(AACC)のJは、人種つまり肌の色が違えばヒスパニック系アメリカ人として見られたかもしれない。三世代ほど後になれば、白人としてアメリカ社会の中に溶け込んでいった可能性もあっただろう。黒人としての人種と区別されるJは、インタビューが進むにつれて「自分がヒスパニック系であるにもかかわらず、教師は自分や家族がスペイン語を話せることを信用しなかった」、「バックパックをもっているだけで万引きをするのではないかと店員にいつも疑われている」といったステレオタイプによる偏見を受けてきた経験を話してくれた。そうした経験を持つJが、合衆国史において一番重要と考える時代はいつかという質問に対して、「自由を獲得するきっかけとなる奴隷制の時代である」と回答している。そして、彼はそうした歴史認識を持つことになった歴史に関する知識を得た場所として学校以外の場所について語ってくれた。

J: 学校は(知識を得るうえで)十分な良い場所ではないね。たぶん、最初に経験として知識を得た場所は、図書館だと思う。それから、普段は勉強のためにインターネット上でコピーしたり、あとはモニュメントから情報を得たりしたね。そこにはたくさんの情報があるからね...

School is really, was not special enough, my first experience of checking of things, where I picked and find some in the library and study stuff, or knowledge you get in internet, I usually copy and spots to study, yea, that would be good way, or maybe monuments, there have like a lot of information... really there.

彼は回答の中で、学校で学んだことはと尋ねると、「奴隷制についてたくさ

んのことを教わったけれども、文化的に敏感な事柄はあまり語られない」と語る一方で、学習後変化した視点を尋ねると、小学校3年生の時に奴隷制について学んだ後、それ以前の自分を「それまで何も知らない幸せな子どもだった」「アメリカはパーフェクトな国だと考えていた」だと答えている。ここから、Jはアメリカの歴史を、移民としてカリブ海諸国から来た家族からではなく、学校における歴史の授業から学び、その後、授業外で得た知識や社会において受けた自分や家族への偏見を体験することで、授業内で語られる奴隷制の情報では十分ではないという結論に達していることがわかってきた。Jは、彼自身が歴史を教えるのならば、もっと黒人の歴史・奴隷制の歴史について時間をかけたいと語っている。

AACCのJが、奴隷制について語る時は非常に攻撃的な返答となることがあった。これはAAAであるEにもあてはまり、彼は直接には合衆国史にまつわる祖先をもたないが、アフリカ系アメリカ人の受けてきた過酷な過去を強調し、「これが真実であり、学校の授業で受ける知識は真実ではない」という認識を示した。

E：高校では奴隷制についてたくさんのことを教えないんだ。時間が無いものもあるけど、だけど、重要なトピックだし、わかるよね、君が高校生だったら...

たぶん、違う方法で教えているんだと思う。僕の友達の（歴史）教師はアフリカ系アメリカ人で、僕の教師にはならなかったけど、授業外でいろんなことを現代の問題を教えてくれた。なぜかは知らないけど僕の白人の教師は教えなかった、たぶんそんなに賢い教師じゃなかったのかもしれない、アフリカ系アメリカ人の教師に教えてもらった友人は聞いたこともないような話を教えてくれたよ。

They don't teach a lot of about slavery in high school because they really don't have time for it, though, but it is important topic, you know, when you are high school student ...

I guess they teach in different way, because my friend had a African

American guy who I never had as my teacher, you know, but outside of the class, you know, he would tell me about the current (issues), which My Caucasian teacher wasn't teach me, I don't know why that was, maybe there would not be a clever structure, you know, if she didn't teach it in the class, that's the kind of things. My African American teacher's friend, you know, he teach me about that's kind of things that I've never learned in the class.

彼はアフリカ系アメリカ人に対する偏見や差別について大きな関心を持っているが、しかし、実際にその知識は高校の歴史教育の中で知る機会を得ながらも、教室外からの知識から、高校の歴史教育で学ぶ奴隷制の知識に限られたものであることを学ぶに至っている。Eは、奴隷制にまつわるアフリカ系アメリカ人の歴史を家族からではなく、友人や知人を通して多様な歴史認識を得たことで、教師の教える歴史に対して、その知識が不十分であるという認識を持ったと答えている。

両親ともにアフリカ系アメリカ人である AAUS の場合、奴隷制や公民権運動を学ぶ前にすでに家族や友人などから知識を得ている場合が多く、授業を通じて否定的もしくは肯定的な歴史観にも転じることがわかった。AAUS である A は、高校の時に奴隷制を学んだときに感じた思いを次のように語っている。

A：奴隷制について学んだとき、その内容から僕自身が政治的に修正されていると感じたよ。彼らは、その時、奴隷制の意義を作り出し、構築していた。けれども、僕はその時代の違う話を父から聞いていたから。アフリカ系アメリカ人は、奴隷主が食べない不必要な肉を食べなければならなかったときに、BBQ を作り出したとか、彼らはヒッコリーやチェリーの木をスモークしてビッグピッツで料理したとかね。これはアメリカの食事スタイルと思われているものだよ。

When I learned about slavery era, I felt I was politically corrected from the contents. They manufactured, constructed the reason to have slavery

system at the moment. However, I heard different story from my dad in those time. African American created BBQ when they were forced to eat the unwanted meats that their slave owners didn't eat. They were smoked with woods like Hickory and Cherry wood to provide flavor and then cooked in Big Pitts, which now considered an American Food Style.

また他の AAUS の生徒である C は、次のように語っている。

C：二年生の時、歴史の本でたくさんのことを話し合ったわ。奴隷制はその中のひとつ。彼（教師）は奴隷制の中で人々が自由のために何をしたのか生徒が知っているかどうか、彼らが単なる犠牲者でないことを確認したわよ。わかる？彼ら（奴隷は）は働いているところから逃げようとしていたのよ。でも、本は単に彼らは犠牲者そしてシャイで、ただ従事してただけとしているのよ。先生は私たちにもっと彼らは違っていたと教えてくれたわ。思うに本当にいい時間だったわよ。

The second year we talked about a lot of things history book, slavery is one of them. He just made sure we knew that people in slavery actually did fight to be free, not just they're victims. You know, they tried to get out of where they worked. But the book just make like they are victims, they just tried to involved, he got shy. The teacher told us like more they are really far while. I think it was really good time.

C は、家族とは歴史について話した経験がないが、親戚からテレビドラマである「ルーツ」を黒人だったら知っていなければならないと押し付けられるように見た経験があると語っている。そうした彼女にとって高校生の時に受けた歴史教育から大きな影響を受けることとなった。しかし、彼女はAとは異なり、歴史教育と教師の指導から、黒人奴隷が受動的な存在ではなく、能動的に反抗し戦ったことを学び、肯定的な歴史観を得るに至っている。

つぎに白人と黒人の両親を持つ Bi-RAA 生徒の場合であるが、白人社会の中

では、黒人として扱われ、黒人社会の中では白人に迎合する人々として黒人社会にも溶け込めない彼らの現実も明らかになった。黒人の生徒の間で、白人と黒人の両親を持つ生徒は「ミルクコーヒー」と呼ばれ、仲間外れにされることがある。こうした経験は、Bi-RAAの生徒にどちらの側にも立てない複雑な歴史認識を生じさせている。Bi-RAAであるBは歴史学習を次のように振り返っている。

B: ああ、私は読んだ本が好きじゃないの。私は、アフリカ系アメリカ人の奮闘を描いた「Rising Sun」という本を読んだけど...。先生たちは、あまり古典の本を取り上げたりしないのよね。たとえば、私はアフリカ系アメリカ人だったから人生すべてが大変だったとか、公民権運動期間中とか、権利や奮闘とか...そんな感じ。まあ、読んだことないけど。あと、フランクリン・ルーズベルトをベースにした本も好きじゃないわ、そんな感じの本ね。それとほかのポエム、アフリカのポエムを分析したわね。

Ah, I don't like the book which I read. I read "Rising Sun", which about African American struggles and ... They did not target on classic books, just like what like, all of my life was tough because I am African American, is more about African American when they in like, during Civil Rights Movement and when they was like more in rights or in struggles. More like that ... and I don't even read, ah I don't even like the book based on Franklin Roosevelt, like that kind of one. And other poem, and we analyzed that the poem in Africa.

彼女は、黒人のほうの親のもつ経験から、黒人の過酷な状況については知っているがこれを詳しく学ぶ奴隷制の授業について関心があまりなく、インタビュー回答のように、奴隷制に焦点を当てた授業に対する消極的な返答も見られる。また、黒人英語や、黒人生徒の大声で話す会話が好きではないことを話してくれた。大学に入る前は、黒人ばかりのグループには入っていなかったと

いった自身の学校での経験を振り返り、もっと様々な人種やエスニシティの集団にいる方がいいとも語っている。

白人生徒の場合・・・奴隷制などを扱う授業に消極的

一方で、白人生徒（EA）であるDは奴隷制や公民権運動の教え方について、「アフリカ系アメリカ人がプロジェクト式の学習方法をとった場合、きっと攻撃されたと感じるだろう。だから、それに（奴隷制や公民権運動）については従来通りの教え方で教えるのだろうと思う」と語っている。黒人生徒（AAUS、AACC、AAA）とは異なり、奴隷制や公民権運動についての情報は、必要ではないが、情報内容そのものが悪いものであるため、そうした真実は知ることは黒人生徒の好むところではないと考えていた。

D：南北戦争あたりでは、知っているように、アフリカ系アメリカ人は奴隷...そして奴隷...南北戦争はそんな、つまり、奴隷制...一種の...、北部イリノイ州のほとんどの地域では奴隷を持っていなかったし、それから...結果的に奴隷制は廃止された。

うーん、それは不必要な情報ではないけれども、情報は悪いし、彼ら（黒人生徒）は真実を知るの好きじゃないと思う。もし僕たちが発表やプロジェクトなんかのことをしたら、何か...のようなことになるんじゃないかな。そしてアフリカ系アメリカ人は、もしそれをとても真面目に受け取ったら、わかるかな...なぜなら彼らを感じているから、わかるよね。「おれの祖先はこんな風にされたんだ、（指をさして）おまえたちのような人々に！白人に！」...そして腹を立てる。

Around the time of civil war, you know, African American were slave ... and slave ... Civil War is like, you know, slavery ... a kind of ..., most of northern Illinois we didn't have slave ..., so and then ... eventually, slavery abolished.

Umm ... It is not unnecessarily information, but I think the information is bad and they don't like to have true. If we did like a presentation or project

or something, it might have been like something ..., and I think that African American person, if they take very seriously, you know ... because they feel, you know, my ancestor treated like this by you people. (He indicated by the finger) by Caucasian people ... and get upset.

また、Dに奴隷制についての授業を受けて歴史観が変わったかどうかを尋ねると、当時歴史的な事柄について家族や友人とも話したこともなく、ほとんど思い出せない様子であり、奴隷制や公民権運動についての知識から何も見方は変わらなかったと答えている。

D：自分の意見は変わってないと思うよ。というのも、その前にも意見は持ってなかった、あまり考えてなかった。だからそうだね、変わらなかった。

I guess my opinion didn't change, because I didn't have opinions before that, because I didn't think of that. So I would say yes, it didn't change.

ユダヤ系の白人生徒Fは、学年が上がるにつれ奴隷制についてたくさんの情報を得ていったこと、またユダヤ系の出自が他の白人とは異なる経験を持たせていることについて話をしている。例えば、日曜学校において異なる歴史観を身につけていったことを次のように語っている。

F：日曜学校では授業はいつも違った形で始まるんです。あなたが一番若い場合は「百年前、黒人は奴隷で、彼らは暴力を受け、白人はアフリカから彼らを連れてきたのだ」。もう少しあなたが大きくなると、彼らはもう少し暴力に関する情報や実際に起こったことを入れていくような具合です。

言うなれば、そう私はユダヤ系として育ったから、私は日曜学校に行き「私たちはエジプトで奴隷だった」と学ぶ。そしてイスラエルのことやホロコーストのこと、暴力やその種の歴史について学ぶわけです。私は

それに慣れているタイプだし、ずっとそこでほとんどの知識を受けてきたし、そこでただ大きくなっただけのことです。いまだに奴隷制は人々に影響を与えているとか、白人は約束したとか、南アフリカでは人々は彼らがなぜサインをしないのかその理由を探っているし、きっと彼らが誰にも従わずただXとサインしている、そこにはまだ人種差別が残っている。私が若い頃は「そんなことは過去の話よ」と思っていたけれども、大人になってからは、昔ほどではないけれどまだ人種差別は残っている、しかし...

We made the class started in many different ways, when you were younger, “Oh, one hundred years ago, Black people were slaves, and they got violence, and white people took them from Africa,” and when you’ve got older, they get little bit more into violence stuff, actually went on.

It’s kind like to say, just because, Ok, I raised as a Jewish, I went to Sunday school and you learned about “Oh, we’ve been slaves in Egypt” and you learned Israel stuff, and holocaust stuff, and violence and some kind of history, I am kind of used to that. I mostly just accept it something else over the past, and just as I grew up more, it is like, it is still slavery influences people, it is still like, whites promised still like, I am sure people in South Africa still find why they don’t sign it, probably they might not follow anymore, but they still sign X. They still have racism and stuff. I guess when I was younger “Oh it is in the past, past”, but when I get older, they still have racism, not common like used to be, but ...

彼女はアフリカ系アメリカ人の奴隷に置かれた状況について少し共感を示しながら、ユダヤ人の歴史とアフリカ系アメリカ人の歴史を中立的な立場から話をしているようであった。さらに、教科書や博物館の情報については偏見が混じっていると強い意見を述べる場面も見られた。

一方で、ユダヤ系アメリカ人であるFは、高校における歴史教育や教師に対する印象についてほとんど記憶していない。教師についてもそれが一人は男

性でもう一人は女性であったということ以外、その人種やエスニシティについては全く思い出すことができなかった。また、奴隷制の歴史の授業について次のように語っている。

F：合衆国史の授業はとてもドライで、ただ情報を理解するだけ。つまり、一番双方向的だった授業は、彼らが人々をボートの端から端まで詰め込んだ方法、起きあがる空間もない、ただ、そういった状況。すべては明解だったわ。

US history classes are pretty dry, just see information, I mean, the most interactive that we got are finding, when they explain how they took people over on their boat side by side, you had no wake over the room, just the condition. And, everything, it was very clear.

そのほかのヨーロッパ系アメリカ人（EA）のG、I、Lの回答では、歴史の授業について映画やパワーポイントを使った双方向的な授業といった授業を受けた経験を語り、その有効性を肯定的に評価している。歴史の授業に対する印象についての回答では、教科書の事実をどのような教材を使って教えたかといった授業方法的な面での回顧が多く、奴隷制や公民権運動についての教え方について尋ねた時も、教授内容への批判よりも、教授方法における視点からの改良について答えている。

こうしたインタビューによる回答結果から、黒人生徒と白人生徒の持つ歴史の授業やそうした授業を受け持つ教師に対する意識には、奴隷制とそれぞれの生徒の家族の物語に関係が有る無しではなく、肌の色によって現行の歴史教育に対して肯定的な見解を取るか、否定的な見解を取るかが決まる傾向が強いことがわかる。

（2）歴史観と家族の物語

合衆国史の中でどの時代が一番重要だと思うか、また合衆国史の中で一番重要だと思う人物は誰か、この問いに対する回答には黒人生徒と白人生徒の間に

大きな開きが存在する。黒人生徒は黒人の自由獲得や公民権運動に焦点をあて、白人は合衆国の転換期にあたる時代を重要な時代として選択する傾向が強

表2 合衆国史観と合衆国史にまつわる家族の物語や友人との会話

人種・エスニシティ	家族の物語	友人知人との話	重要と思う時代	重要な人物
A 黒人 (アフリカ系 アメリカ人)	学校統合時代 (父親の経験)	大統領選の話	学校統合 の時代 60s	B オバマ
B ミックス (片親がアフリカ 系アメリカ人)	南部での人種隔離 による差別(祖母 の経験)	特になし	公民権運動 の時代	ML キング Jr.
C 黒人 (アフリカ系 アメリカ人)	親戚からTVドラマ 「ルーツ」を見るよ うに強制された	特になし	公民権運動 の時代	ML キング Jr.
D 白人 (不明)	特になし	特になし	アメリカ 「発見」の時代	リンカーン
E 黒人 (両親がアフリカ からの移民)	アフリカの祖国に おける伝統的人間 関係	黒人教師の教 える歴史の授 業について	公民権運動 の時代	B オバマ
F 白人 (ユダヤ系 アメリカ人)	曾祖父と曾祖母の 移民したころの話	歴史的人物の 裏話など コロンプス批判	産業化の時代 (1900-20s)	リンカーン T ルーズベルト
G 白人 (一部 アイルランド系)	曾祖父と曾祖母の 移民したころの話、 祖母が見た公民権 運動の話	特になし	アメリカ独立 革命の時代	ML キング Jr.
H ミックス (片親がアフリカ 系アメリカ人)	父親方の人種差別 に関する経験談・ 母親方の移民した 時の祖先に関する 話	特になし	南北戦争	リンカーン B フランクリン
I 白人 (一部イタリア系)	曾祖父と曾祖母の 移民したことの話	オバマ大統領 や選挙について	2008 年の大統 領選挙	T ジェファソン
J 黒人 (両親がカリブ海 沿岸諸国から 移民)	父親がキューバか らアメリカに帰国 した時、政治的ト ラブルに巻き込ま れた話	特になし	奴隷制の時代	マルコム X
K 黒人 (祖母がフランス からの黒人移民)	祖母がフランスか ら移民してきた話 父親との科学に関 する話	特になし	南北戦争	ニコライ・テスラ (ラジオ発明)
L 白人 (不明)	特になし 祖先はどこから来 たのかもわからない	特になし	南北戦争	T ジェファソン F ルーズベルト

く出ている。つまり、白人生徒の場合、合衆国史を一連の流れの中でとらえ、現在の発展の契機となった時代、つまり転換期を答えることが多かった。JやKといった海外からの移民を祖先に持つ黒人の生徒は、GやIのようなヨーロッパ系移民を祖先に持つ白人の生徒と、移民という意味では家族の系譜は同じである。にもかかわらず、肌の色という人種の差異によって、合衆国の歴史に対する認識が大きく変わってしまっていることを意味している。

こうした結果については、エプスタイン (Epstein) が行った生徒へのアンケート調査でもほぼ同様の結果が出ている。こうした歴史観を持つにいたった思想的な背景・知識的な背景をさぐるために、その選択理由を今回の調査で尋ねている。

黒人生徒の場合・・・合衆国史で重要な時代は「公民権運動」

黒人生徒の回答した重要な時代の選択理由において目立っているのは、その時代が、人種的な差別からの開放や現在の権利の獲得につながるきっかけをつくった時代だからというものである。その他の理由として、直接的な経験ではないが、家族や親戚から聞かされてきた人種差別の話や権利獲得にまつわる経験談から、公民権運動の意義について回答することが多かった。例えば、Bは現在大学で勉強できることができるのは公民権運動があったからだと答え、Aもまた父親が学校統合の時代にひどい扱いを受けたけれども大学進学まで果たしたことを語り、Cもまた黒人がこれまで受けてきた過酷な扱いを口に出して訴えることができるようになったことを、理由として回答している。

A: 両親のおかげ、特に父、彼は1961年生まれで統合の時代をすごさなければならなかった。・・・話といえば、放課後に叩かれたり、歩道で食べ物投げつけられたりといった話さ。黒人の両親は白人の子どもと一緒に学校に、彼らの子供をやるのはいやだったんだ。学校に行く道では、彼らは黒人の子どもに対して家に帰るように脅していたんだ。

Because of my parents, especially my dad, he was born in 1961. He had

to go through integration. ... Those stories like getting beaten up after school, food thrown up at you on the side walk. Parents did not want their black kids to go to the school with light kids. On the way to school, they were, like tapped to scare black kids to go back home.

B：私の祖母はその時代に何が起こっていたかを話してくれたわ、彼女は私たちにいつもどんなに世界が違っていたかについて話をしてくれたわ。公民権とかそんなものをね。彼女の友達がある日夕食に誘ったとき、彼女は後ろの方で食べなければならなかったの。これは彼女が育ったミシシッピ州で起こったことで、すべてのアフリカ系アメリカ人は後ろの席で食べなければならなかったの。それで彼女はもうそこでは食べたくなくなった、そこはたぶんそのあたりではいいハンバーガーのレストランだったと思うけど。

my grandparents can tell something happen back in the day whatever, she always told us about a story about how the world was so much different, civil rights something like stuff. When her friends took her to a diner one day, she had to eat in a back. This was happened in Mississippi, where they grew up. All African American had to eat in the back, and she didn't wanna eat in that, it supposed to be a good burger dinner in all over there.

また、EやJのような親戚や両親が合衆国史における奴隷制度を経験したアフリカ系アメリカ人ではない場合もまた同様である。近年の黒人移民であるため、間接的にも近親者から体験談を聞くことは無かったにもかかわらず、教科書や学校の授業での情報をもとに、黒人にとっての権利獲得において大きな意義をもっていると語っている。

E：1950年代と70年代の間、公民権運動が起こっていた時代とでもいい。重要だと思うのは、とてもたくさんのことが変化した時代で、わかるよね、その前、アフリカ系アメリカ人が、わかるよね、まあ、言った

ように公民権運動は有色人種の人々の平等の権利のために戦うもので、ははは、だからその時代は俺にとって重要で...、つまり、奴隷だった時代にもどると、知っているよね、ハリエット・タブマン、その時代においてとても重要な人物だったよね。

I would say, some kinds between 1950s and 1970s, when they had Civil Rights movement going on. That's important because I think it is a very, a lot of changing time, you know, before African American, because, you know, that became, like I said, Civil Rights Movement fighting for ... people of color to have equal rights, you know, hahaha, so that's the time is important for me ..., I mean, back in the day they do slavery, you know Harriet Tubman, right? In those time is very important because ...

Jは、公民権運動や奴隷制に関する具体的な会話を家庭といった身近なところで聞いてきたわけではない。他の白人の学生と同様に、高校の歴史の授業の中で奴隷制や人種差別について知ったと答えている。しかし、教室外において、さらに友人や知人などから奴隷制や人種差別について具体的な話を聞くといった経験から、授業ではもっと多くの時間が黒人の歴史として教えられるべきだと考えるにいたっている。Jの回答には、家族や親族からの影響よりも、肌の色、人種という共通性から得られる共感や、黒人に対する警察の暴力といった現在の問題からも歴史観を形成していることが明らかになった。

一方で、黒人の生徒であっても Bi-RAA 生徒である H とフランスからの移民の祖母を持つ K は、南北戦争を重要な時代として選んでいるが、その理由について両者は異なる回答をした。K は、黒人が奴隷から解放され自由を得るきっかけとなったからだと答えているのに対して、H は合衆国が強くなるきっかけを作った時代だったからと答えている。これは白人生徒の回答に近く、アメリカという国家の発展への影響という視点で合衆国史を評価する回答であった。

白人生徒の場合・・・合衆国史で重要な時代は「コロンブス」「独立」といった転換期

合衆国史における重要な時代という質問に対して、白人の生徒の回答は大きく黒人生徒のものとは異なるものだった。様々な国からやってきた移民を祖先に持つDは、コロンブスによる「アメリカの発見」を、「アメリカ人」として回答していることがわかる。

D:「アメリカの発見」と言わなくちゃね。だって「アメリカ人」の歴史の始まりだから。

I have to say, "Discovery of America", because that the start of "American" history.

さらにアイルランド系移民の祖先を持つGは、重要な時代として「独立の時代」を挙げている。その回答からうかがえるのは、建国期にアメリカにやってきた「アメリカ人」としての視点からその時代を選んでいるということである。

G: 言わなきゃいけないことは、独立の時代だね。ええと、政府を設置し人々のことを話さないと。変化を求めてアメリカにきて、彼は本当にほしかった変化と出会えた。彼らが本当に信じたかった宗教やたぶん受けたかった洗礼を得られたし、何もかも。そして彼らはほかの人たちの信じるものに対して偏見を持ちたくはなかったんだ。だからそれは、もっと政治上の自由についてだね。

What I am going to have to say is, Independent. Well, I have to say that people who set up with the government, they wanted to change and they came to the United States, they meet changes they really want, whatever the religion that they really wanted to believe in and they get want to baptize probably, and they don't wanna prejudice on any other believe, so it is more about freedom on the government.

DやGはともに、合衆国史の流れを俯瞰し、そのなかで重要な時期を自己のエスニシティや「家族の物語」から選ぶのではなく、「アメリカ人」として教科書的な視点から選択していることがわかる。

ユダヤ系アメリカ人であるFは、上記の二人とは少し異なり、生活の視点や「家族の物語」から合衆国史で重要な時代を産業化の時代を挙げている。

F: うーん、難しいわね、わからないわ・・・(一分後) たぶん産業化の時代だと思うわ。すべては大きくなり出して、人々は自動車を得て、高いビルを建て、エレベーターと使い始める、そんなところかしら。(1990年から1920年ごろ?) そのあたり。(どうしてそう思う?) なぜって今を見たら、今日のすべてを調べたら、技術の進歩が産業時代後に大きく進んでいるでしょう。ブームになって。つまり、かつては最後にどこで車に乗ったか、といった時代だったでしょ。・・・私の祖父が車のライセンスを見せたときのことを思い出してみると、私は彼がそのためにいろんなことをしなければならなかったとは思わないわ。事実彼は最初の車を買ったとき、そこの信号を曲がるくらいの考えしかなかったのよ。・・・

Umm ... It really hard to say ... I don't know ... (one minute past) ... I guess it is around Industrial Age. Everything just started booming, people start gaining cars, people built the building higher, and so people start using elevators around all the stuffs. (Q: So it is around 1900-1920s?) At the there. (Q: Why do you think so?) Because If I've got today, if you looked up everything today, technology wise it's been greatly increasing over the time after the industrial age coming, boomed. I mean it used to be where you got a car in a last, you quite a while ... I try to remember my grandpa show me the license I don't think he had to do anything to get it, and in fact he get the first car he came up to the idea to put the turn the signal on there ...

結論として、黒人の生徒も白人の生徒も同じように、家庭で語られる「家族の物語」を教室での学習に持ち込んでいることがわかる。しかし、黒人の生徒は、合衆国史について、奴隷解放や公民権運動を中心に学び家庭などで得た既存の知識とのギャップや情報の不足を感じている。一方で、白人の生徒は、アメリカ人としての合衆国史全体を、現在の自分の生活に至るまでの自分たちの発展の流れとして見ている。また、白人生徒が家族で話している話題は移民の時代のことが多く、一方で黒人生徒の場合は人種差別の話が多いことがわかった。

4. 結 論

黒人の生徒は、暴力や差別を受けた体験を「家族の物語」に持つことが多く、近年移民としてアメリカに渡ってきた黒人の生徒（AAAやAACC）であっても、人種偏見といった生活上の実体験や、友人から聞く黒人差別の実態を、歴史の学習に多くの場合持ち込み、情報の違いから教師や学校への不信感を生んでいたのである。けれども黒人と白人の両親を持つBi-RAAの生徒の場合、白人と黒人の立場から合衆国史を見ている場合が多く人種差別や衝突を描く授業に否定的な視点を持ち、双方にも自己を投影することのできない複雑な感情も浮き彫りとなった。

こうした黒人の生徒の事情とは異なり、ヨーロッパ系移民の祖先を持つ白人の生徒は、移民の「家族の物語」を歴史学習に持ち込んではいるが、エスニシティの違いは世代を経てアメリカ人として同化し、「我々」アメリカ人の歴史として歴史を学習していることがうかがえる。しかし、黒人であるAAAやAACCの場合は、そうしたヨーロッパ系白人移民と同じ移民としての家族の歴史的背景は同じであるにもかかわらず、さらにエスニシティとしては奴隷制を経験した祖先を持つアフリカ系アメリカ人とは異なっているにもかかわらず、アメリカ人として同化し、「我々」アメリカ人という主体者の視点から合衆国史を学習することが困難な状況にあることが明らかになった。

今後の研究の課題としては、高校の歴史の授業のなかで、アフリカ系アメリカ人生徒の言動を観察し、教師がアフリカ系アメリカ人生徒の歴史理解に対し

て、どう配慮しているのか、していないのかを調査する必要がある。また、今回は大学進学を果たした生徒にインタビューをしたため、学力が低い生徒へのインタビューした場合、異なる結果が予想される。その場合、学校における歴史学習の内容や歴史認識と「家族の物語」に現れる歴史認識との間の乖離はさらに大きいのではないかと考えられる。

巻末資料（インタビュー項目）

1. Which time period of US history do you think it's important for you? Why do you think so?
合衆国史の中で一番重要と思う時代はいつですか？それはどうしてそう思うのですか？
2. Who is the greatest person in the US history? Any reasons?
誰が合衆国史の中で偉大な人物だと思いますか？理由はありますか？
3. Where is the most believable place to go to get information about history? (teacher, textbook, family members or relative, minister or church group, club or organization, books)
歴史についての知識は主にどこで得たものですか？（例：教師、教科書、家族や親せき、教会もしくはそのリーダー、クラブもしくは組織、本など）
4. What family stories have been run down in your family?
家族で代々伝わっている話がありますか？
5. Have you talked with your family about US history? If so, what was the topic?
合衆国史について家族で話をしたことがありますか？もしそうなら、トピックは何ですか？
6. Have you talked with your friends about US history outside of the class? If so, what was the topic?
合衆国史についてあなたの友人と話したことがありますか？もしそうならトピックは何ですか？
7. In the class, what did you learn about Slavery?
高校の授業で、奴隷制について何を学びましたか？
8. Did you change your perspective to see slavery? If so, what is the difference?
奴隷制を知った時にあなたの視点は変わりましたか？もしそうなら、何が変わりましたか？
9. Do you have any opinions about the way slavery is taught?
なにか奴隷制の教え方に意見はありますか？
10. How have African Americans been treated unfairly in the past?
過去において、どうアフリカ系アメリカ人は不公平に扱われていましたか？
11. In the class, what did you learn about civil rights movements?
高校の授業で、公民権運動について何を学びましたか？
12. Did you change your perspective to see civil rights movements? If so, what is the

difference?

公民権運動を学んであなたの視点は変わりましたか？もしそうなら何が変わりましたか？

13. Do you have any opinions about the way of teaching about civil rights movements?

公民権運動の教え方について何か意見はありますか？

14. Do you believe African Americans are treated unfairly today? Why? or Why not?

アフリカ系アメリカ人の生徒が今日アンフェアに扱われていると思いますか？もしそうなら、なぜですか？そう思わないのならなぜですか？

注

- (1) 本文中において黒人・白人という表記を一部用いている。それは、表2に現れるように奴隷制度の時代にアフリカから連れてこられた人々を祖先に持つもの以外に、近年中米から移民として家族とともにきたもの、またヨーロッパから移民としてやってきたもの、またアフリカから留学生としてきたものなど多様ではあるにもかかわらず、本研究にも表れている通り、有色人種「黒人」としての外部からのレッテルが貼られ、彼らも自己表明として「黒人 (Black)」という表記を用いているためである。また「白人」についても、アングルスaxon系アメリカ人という奴隷制の時期に黒人に対する存在としてアメリカ史に現れる「白人」だけでなく、アイルランドやポーランド、ロシア、そしてユダヤ人といった多様な祖先を持つ人々を含めているが、日常的に「黒人」に対して自分たちを示す言葉として「コーカシアン (Caucasians)」を用いており、また「黒人」に対峙するものとしての集団的な意味合いが強いからである。こうした文脈で「黒人」「白人」という表記をしている。

引用文献

- Baker, Booker Paula. (2005). The Impact of Cultural Bias on African American Students' Education: A Review of Research Literature Regarding Race Based Schooling. *Education and Urban Society*, 243-256.
- Davis, Earl & Jordan, Will J. James. (1994). The Effects of School Context, Structure, and Experiences on African American Males in Middle and High School. *Journal of Negro Education*, 570-587.
- Epstein, Terrie. (2009). *Interpreting National History: Race, Identity, and Pedagogy in Classrooms and Communities*. Routledge.
- Gregory, Conway, Jr. Benjamin. (1988). *An Investigation of Classroom Interactions As an Influence on Student Perceptions and Study of History*. University of Maryland College Park.
- Howard, Tyrone. (2001). Powerful Pedagogy for African American Students; A case of Four Teachers. *Urban Education*, 179-202.

- Ladson-Billings, Gloria. (1995). Toward a Theory of Culturally Relevant Pedagogy. *American Educational Research Journal*, 465-491.
- Merriam, B. Sharan. (1998). *Qualitative Research and Case Study Applications in Education*. Jossey-Bass.
- Mitchell, Antoinette. (1998). African American Teachers: Unique Roles and Universal Lessons. *Education and Urban Society*, 104-122.
- Monroe, R. and Obidah, Jennifer E. Carla. (2004). The Influence of Cultural Synchronization on a Teacher's Perceptions of disruption; A Case Study of An American Middle-School Classroom. *Journal of Teacher Education*, 256-268.
- Nieto, Sonia & Bode, Patty (2008). *Affirming Diversity; The Sociopolitical Context of Multicultural Education*. Pearson.
- Patton, D. Lori. (2006). The Voice of Reason: A Qualitative Examination of Black Student Perceptions of Black Culture Centers. *Journal of College Student Development*, 628-646.
- Skilba, J. et al. Russel. (2002). The Color of Discipline: Sources of Racial and Gender Disproportionality in School Punishment. *The Urban Review*, 317-342.
- Stringfield, S. (1997). Research on Effective Instruction for At-Risk Students: Implication for the St. Lous Public Schools. *The Journal of Negro Education*, 258-288.
- Ware, Franita. (2006). Warm Demander Pedagogy; Culturally Responsive Teaching That Supports a Culture of Achievement for African American Students. *Urban Education*, 427-456.